

○お父さんは窓の戸をはねあげて、外を見まし

みしたら、一つの馬車に大勢、人が乗つて駆けて行きました。さて何が乗つて居たでせう？

是が馬車に是が馬ですよ、二匹居るで

せう(4)

此馬車に七福人が乗つて居ましたよ、

そして大きい聲で「オイ、今度は太郎

ダヨ」「ソレカラ向フノ家ノ三郎サ」

「其次ハ此處ノトムとメリード」ナン

テ云ツて馬車は駆けて行きました、

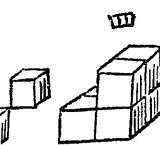
お父さんは「何の事だ」と云ひながら寝てしましました

あしたの朝早く起きましたトムの枕

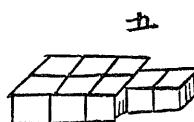
の元に大きな凧、メリーの枕元にはき

五十四

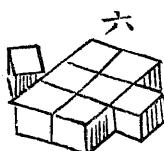
れいな羽子板が「お年玉となつてありましたので二人は大層喜びました(5)是が羽子板では奴風ですよ(6)



四



五



六

適材教育と幼稚園

左の一篇は伊澤修二氏の談話せられたるを日本の小學教師記者が筆記して該誌に載せられたるを参考の爲め轉載せり（記者）

人の天賦の性質及境遇上、將來如何なる業務に就くのが、よりよく成功し、よりよく幸福であるかといふことを豫見して教育することで出來たならば、これほど有功な教育はからうと信する、處が實際には天稟の性能及境遇に悖戾して教育することが澤山にある。例へば生來醫者

として適當なものが、法律學の修業をなし、商人としての才幹あるものが、官吏たるの教育を受け、若くは工業に適すべきものが、哲學の研究に從事するといふ例は、世間乏しくないことであらう。是等の人々にあつては、何れも不成功に終りて、不幸にして世を送ることになるのである。夫故に如何なる人には如何なる職業が適應するかといふことを豫め判定して、教育を施したならば、是れに勝る有功の事業はあるまいかと思ふのであるが、是れは神か聖人なれば格別、普通の人間には容易に知り得ないことである。さりとて、一向之を顧みぬといふのは、まことに不親切極まる次第である。自分は此の問題を解決せんとして今日まで研究した結果では之を系統的に説明することが出来ないで、心中漠然として浮んで居ることがある。此の

適材教育のことは既に後進の若手教育者にも語つたことがあるが、其の人々等も自分等と同じ希望を抱き、種々研究の結果を實地に試験して見やうといふ程度に達して居るのである、开は何であるかといふに、之は幼稚園教育に基礎を置いたのである。抑も幼稚園は人生第一着の關門であつて、所謂父母の膝下を離れて社會に出づる門出の場所であるから、こゝに於て小兒の特質を研究するが、其の目的を達する唯一の手段であるかと思ふのです、自分は幼稚園のことにつき、しばしくその歴史、沿革等を考查し尙現状を觀察して見たが、今日、我國にて行つて居る幼稚園の仕方は、要するにフレーベル式である。このフレーベル式は、歐羅巴の社會及家庭の事情に適應せるも日本には如何のものにや、尤も中には日本化せるものも

ないではないが、その多くはソックリ西洋の型であると思ふ。現在、日本の幼稚園は西洋の社會家庭の事情には適するかも知れぬが、今の日本のそれには不適當である。どうしても今後は、日本の社會及家庭に適する所の幼稚園が生れなければならぬ。例へば今日の幼稚園では、大概、小兒を椅子に腰かけさせて居るが、家庭では全く之と反対に疊の上に座らせて居るのが通例である。座つて居る習慣のものを急に椅子によらしむるは軟弱な小兒の爲に極めて有害である。成人でも、長く椅子によつて居ると、病を引き起すものである。彼の寄宿舎等にて脚氣患者を生ずるが如き多くは腰をかけて居るのによるといふことである。是故に小兒を椅子によらせるのは、大に考へものである。さりとて、幼稚園の椅子を全廢して座らせる

といふことも、今の社會の事情に適しないことである。何となれば、今の小學校は全然腰掛主義である。小學校の腰掛主義を改めるといふのは、到底出来ることではないから、多少、幼稚園に於て腰掛によることを慣れしむる必要があるのである。故に幼稚園では極端の腰掛主義も亦疊主義も共に當を得て居らない、此の兩端を折衷した兼用主義が、最も家庭學校の事情に適することと思ふ。これは、誰の目にも、よく知れ切つた事であつて、其の一例に過ぎぬが、他にも之に類似のことで改良すべき點が多々あるのであらう。

處で、自分が、近き將來に於て、幼稚園を設立して見たいと思ふのは、勿論、以上指摘したやうな短所を補正して行く積りではあるが、其の目的とすることは、各人の性質境遇に應じて適當なる

教育を施し、適當なる業務につかしむるには幼稚園に於て各幼兒の性質、習癖、躰格等に關する記

錄を作り、殆んど統計的に整理し、將來の職業選擇の準備をさせたいといふのに外ならぬのである。

且尙ほ、引つゞき小學校は勿論、中學校等にても

かかる統計的調査をなし、個性に適應して職業鑑定の資に供したならば殆んど肯綮を得るに庶幾う

と思ふのである。殊に去る十三日はペスタロチー先生誕生後百六十年に相當するを以て、朝野の教

育家相集り、その紀念會を開かれ、何か紀念事業を經營することもあらば吾等は日本的幼稚園の設立を其の一に加へたいのである。之れ即ち、ペ

スタロチー先生の遺志に最も叶ひたるものである

と思ふ。(日本之小學教師)

幼兒品評のいろく

人物を品評するとは、誠に、興味あるとなれど、往々不測の害を殘すと多ければ、人皆之を戒むる

を常とす、されど、歴史上に於ける、古人の性行を論じ、其事蹟を分析するは、利ありて害なき業

と云ふとを得可し、幼稚園に於て、幼兒の性行を品評するとは、歴史上の其れとは、比較す可くも

あらねど、吾等子供と遊び、子供と暮す身には、

幼兒の性質を分析し、其行動を品評するとは、中

々に興ある心地す、况して、其兒の父母をして聞

かしめなば、又一層の感興わらんかと思はる、今

女子高等師範附屬幼稚園に於て、某保姆が某幼兒

につきて視察せる記事の二三を、左に記して所感を述べん

○某男兒 父は某書籍會社取締役(本園幼兒)